３．調査の概要

中世の調査（上層）

北側調査区からは溝・土坑（どこう）・ピットを検出しました。井戸と考えられる土坑から珠洲焼（すずやき）のすり鉢と共に長さ20㎝程の礫（れき）がまとまって見つかっています。これは井戸を埋めるときに一緒に投げ入れたものと思われます。

南側調査区からは溝・井戸・土坑・ピットを検出しました。南１工区の東側には掘立柱建物（ほったてばしらたてもの）を構成すると思われるピットが数多く見つかりました。また、調査区西側には素掘りの井戸が多く作られていました。南２工区では遺構は少なくなります。調査区中程には並行する２条の溝があり、以東で中世の遺構が見つからないことから、これらの溝が集落東端の境と思われます。

古代の調査（中層）

遺跡の時期は、出土遺物により平安時代（９世紀前半）と推定できます。遺構は竪穴（たてあな）建物・土坑・溝・ピットなどが見つかりました。竪穴建物は居住域に位置します。幅約４ｍ、深さ40㎝以上の隅丸方形を呈します。柱穴は見つかっていません。

標高が若干低い居住域の東側には水田が広がります。大小の畦畔（けいはん）が７条見つかっており、それぞれ平行・直交の関係にあります。また、東西南北の方向を意識している可能性があります。幅の広い畦畔は、上部の土質がわずかに異なり、とくに固くしまっています。このことから、畦畔構築時に、盛り上げる土を改良し、突き固め、舗装（ほそう）したものと考えられます。古代の水田の検出は、阿賀野市では初めてです。居住域と水田がセットで見つかる事例は貴重です。

弥生時代の調査（下層）

北２工区西側、標高5.5ｍ～5.6ｍ から弥生時代の土器が出土しました。Ｖ層からは中期の土器、Ⅵ層からは前期の土器が見つかっています。遺構は性格不明土坑、ピットなどが見つかりました。土坑の中からは前期の土器が底部から口縁部まで出土しました。また南工区東側でも弥生時代の土器が見つかっています。こちらの標高は5.4ｍ～5.5ｍです。下層の調査はまだ一部分しか実施しておらず、残りの調査でさらなる遺構、遺物の発見が期待されます。

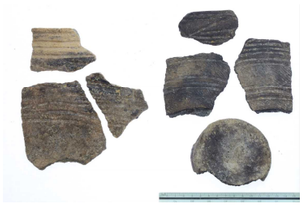
出土遺物

遺物は全調査区より弥生時代から中・近世に至るまで、幅広い年代にわたって出土しています。その種類は多く、土器・石製品・金属製品・土製品などです。

土器は弥生時代前期の深鉢（ふかばち）が、古代では平安時代の土師器（はじき）・須恵器（すえき）の杯（つき）・甕（かめ）類が出ています。中世は珠洲焼のすり鉢や青磁椀（せいじわん）の破片があります。その他の遺物には砥石（といし）、釘状の鉄製品などがあり、また鍛冶関連の遺構の存在をうかがわせるフイゴの羽口や碗型滓（わんがたさい）・鉄滓（てつさい）が主に井戸から出土しています。

中　世

古　代



弥生時代

山口（やまぐち）遺跡　現地説明会資料

〔新潟県阿賀野市山口字城ヶ窪2888ほか〕

令和3年10月3日（日）

国土交通省北陸地方整備局新潟国道事務所

公益財団法人　新潟県埋蔵文化財調査事業団

１．遺跡の概要

山口遺跡は、国道49号阿賀野バイパス事業に係る2007（平成19）年度の試掘調査で見つかった遺跡です。東西方向約570ｍにわたる大規模な遺跡で、阿賀野川や小里川によって形成された標高約６ｍの自然堤防上に立地します。

過去、2008・2010・2013（平成20・22・25）年度に本調査が行われ、弥生時代、古代、中世の遺構・遺物が見つかっています。古代では、一般的な集落では数少ない総柱建物を中心とした建物群、県内初例となる唐三彩が出土しており、地方の有力者や官人の関与が想定されています。

今年度は、バイパスの両脇に作られる水路部分3,197㎡（３ｍ幅で北側約288ｍ、南側約270ｍ）を調査しています。今回の調査では、東側に水田が広がっていたことが明らかとなりました。有力者が拠点のすぐそばで水田を開発する当時の景観が浮かび上がってきました。

２．基本層序

Ⅰ層　褐灰色シルト　現代の水田耕作土

Ⅲ層　黄灰シルト　中世の遺物包含層

Ⅳａ層　灰色シルト
Ⅳｂ層　黒褐色粘土
Ⅳｃ層　灰オリーブ色シルト
} 古代の遺物包含層（中世の遺構検出面）

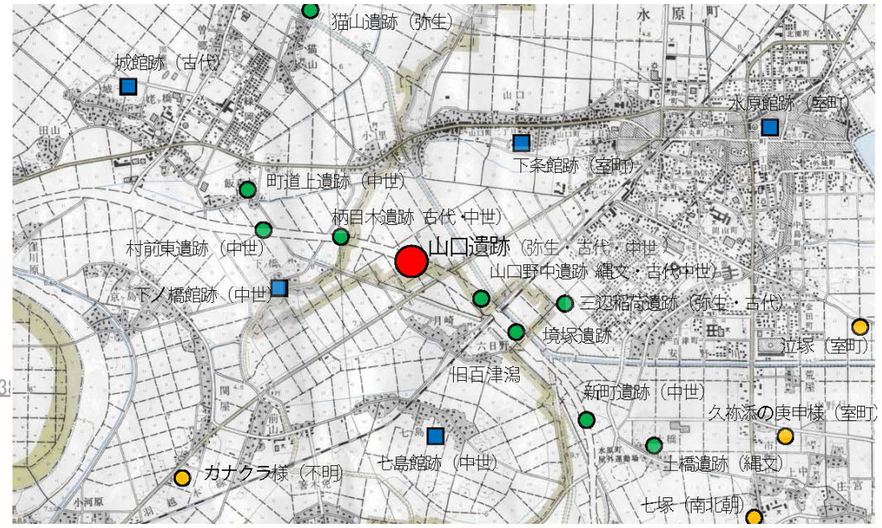
Ⅴ層　灰色粘土　弥生時代の遺物包含層（古代の遺構検出面）

遺構全体図（古代）と写真

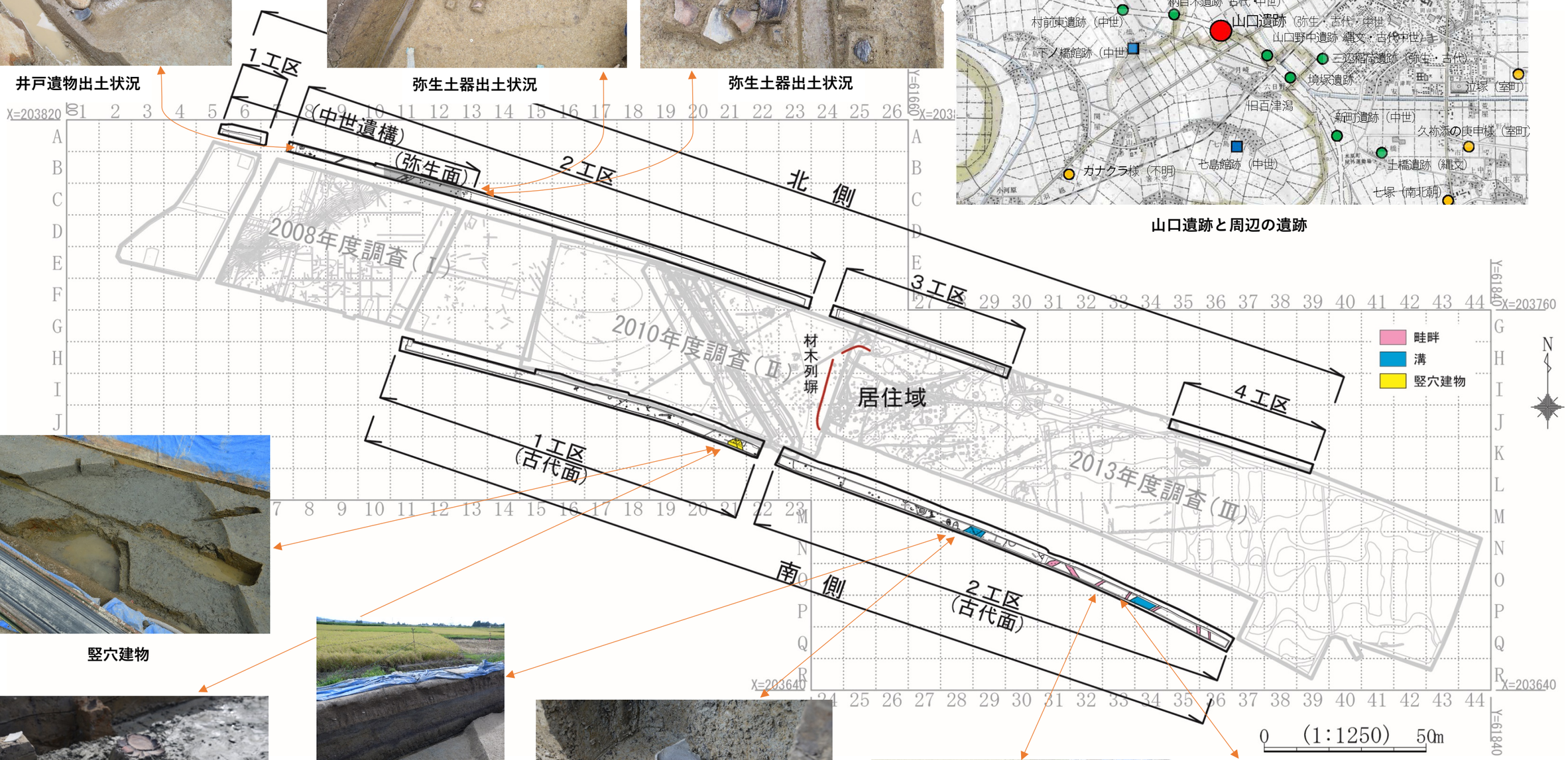
井戸遺物出土状況

弥生土器出土状況

弥生土器出土状況



山口遺跡と周辺の遺跡



竪穴建物

竪穴建物遺物出土状況

溝

溝遺物出土状況
（杯身と杯蓋のセット）

水田区画と畦畔検出状況

畦畔断面